

会議録

日時	令和7年10月21日(火)14:00~16:30
場所	総合文化センター 視聴覚室
件名	令和7年度 第5回社会教育委員会(定例会)
出席者	社会教育委員:加藤一哉、湯原定雄、安藤裕子、浅沼克郎、板橋晋司、伊藤孝一、岩島留美子、滝川直樹 事務局:加納素介(中央公民館長)、清水芳樹(生涯学習課)
議題	<p>1 挨拶(代表) 代表より開会のあいさつ。</p> <p>2 研修「アンケート結果から見えてきた成果と課題の確認」 「提言の項目と具体的な内容について」グループ別検討</p> <p>(1) 事務局より、アンケート結果の考察の説明。 (2) 事務局より、提言の項目と内容の案について説明。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"><p style="text-align: center;">(案)</p><p>1 ふるさとに誇りをもつことのできるCSと地域学校協働活動の在り方 (1) 学校の教育活動と地域の活動の関連を強化 (2) 活動を通して育てる姿の明確化 (3) 児童生徒を地域の一員として位置付けた交流の場の拡大</p><p>2 多世代間のつながりと持続可能な活動に向けて (1) 機能的な組織と負担の軽減(組織の一元化・青少年組織・青年世代団体) (2) 多世代間の構成員枠設定(青年世代の組み込み・記録映像作成など) (3) 多世代の地域住民が参画できる活動の工夫</p></div> <p>(3) A・B2つのグループで、この案について検討。 Aグループ:加藤、板橋、湯原、岩島、滝川 Bグループ:伊藤、安藤、浅沼</p> <p>(2) 各グループで協議した内容を発表する。 Aグループから: ① I(1)「強化」という表現は「深化」とするべきか。 ② さまざまな参加した人たちの声を拾って伝えていくことが大事。 ③ 「交流の場の拡大」を「交流の場の位置付け」にしたほうが、負担感軽減になるのでは。 Bグループから: ① 具体的な子どもや参加者の姿で示せるとよい。 ② I(2)について、地域の願いなどを吸い上げたうえで、学校の経営方針なども決められるとよい。 ③ PTA(保護者世代)をCSの動きに巻き込むことが大事では。</p> <p>3 事務連絡 (1) 次回の予定について</p>

・次回会議にて、提言の内容について検討を進める。

4 閉会の言葉

(次回会議予定 令和7年12月16日(火)14時から(令和7年度第6回定例会))